

# 神奈川 共通問題 英語 出題傾向と対策

## 出題傾向の分析

問 1 はリスニングテスト。短い文や対話を聞き、内容についての問いに答えるもの。対話の空所に適切な文を選ぶものなどで、基本的な単語の綴りが問われます。問 2 は与えられた日本語に合わせて英単語を入れる問題で、問 3 は文法の知識が問われる適語選択問題。問 4 は 5 つの語から 4 つを選び、並べ替えて対話文を完成させる問題。文法・構文の知識が問われます。今までは英語の対話文形式で日本語はありませんでしたが、今年度は対話文ではなく日本語を英語に直す形式でした。文脈を推測する必要がない分、解きやすくなったといえます。問 5 は、対話文の空所に適切な語句を補充する問題でした。会話の内容と表を正確に把握しているかが試されます。問 6 は 5 問からなる読解問題です。グラフや表を用いた問題が出されており、それぞれ英文は短いものの、読解力が多角的に問われる問題です。問 7 は会話文の読解総合問題で、本文の内容に合った文をつくるもの、内容の真偽を問うものなどでした。

## 入試までに準備しておくこと

問われている知識は中学の範囲から幅広く出題されているため、1 年生からの復習が必要です。教科書と同レベルかやや難しいレベルの問題をたくさん解き、慣れておく必要があります。出題傾向は近年大きな変更が見られないため、過去の問題を解くことや、同じ形式の問題を繰り返し解くことが有効です。

単語は幅広く問われます。いずれも教科書レベルの基礎単語ではありますが、綴りのミス、時制、単数と複数などに注意する習慣をつけることが大切です。空所補充や語順整序は、偏りなく文法の練習をすることで点を上げることができます。資料を見て解く問題や長文の問題は、近年の傾向として英文の内容に沿って簡単な計算をして答えを導き出す問題が出題されています。注意深く英文を読み、慌てて答えを出さない習慣をつけましょう。

長文読解の問題では 19 年、20 年と続いて単語を書く問題の難易度が上がっていましたが、21 年、22 年は選択問題となったため解きやすくなっています。他県の公立問題では短文を書く問題も出題されているため、今後は単語や文を書く問題が出題されても対応できるように英作文の力をつけておくといでしょう。

リスニングは、継続的に英語を聞き取る練習が必要です。過去の問題や英検 3 級程度の聞き取り問題で練習することが効果的です。

英語 分野別出題形式		22年度	21年度	20年度	
リスニング	記号	内容理解(含英問英答)	10	10	10
	記述	英問英答			
		和問和答			
小計		10	10	10	
語彙	記号	綴り	4	4	4
		語形変化			
		発音・アクセント			
小計		4	4	4	
文法	記述	適語(句)選択	4	4	4
		適語(句)補充			
		語順整序	8	8	8
	記号	部分英作			
		完全英作			
小計		12	12	12	
読解	記号	内容理解(含英問英答)	14	14	14
		内容一致	2	2	2
		段落・文整序	2	2	2
		段落・文・節挿入			
		適語(句)・文選択	6	6	4
	語順整序				
	記述	内容理解(指示語など)			
		語形変化			
		空所補充			2
		和文英訳			
部分英作					
小計		24	24	24	
合計点		50	50	50	

# 神奈川 共通問題 国語 出題傾向と対策

## 出題傾向の分析

例年どおりの大問 4 題の構成で、総小問数は 31 題でした。

問一は、漢字の読み書き、敬語・表現、資料を含む漢字の読み取り問題でした。漢字の読みは「迅速(じんそく)」、「折衷(せっちゅう)」など難易度が比較的高めのもので、書き取りは例年通り小学生範囲のもので出題でした。(ウ)(□)では尊敬語・謙譲語の区別が、(ウ)(□)では副詞の呼応を使った書きかえ表現が出されました。

問二は、小説文からの出題でした。7 題の設問の大部分が登場人物の心情を問う設問でした。登場人物の気持ちや様子を確認しながら読むことで点数が取れる設問が多かったようです。

問三は環境をテーマにした論説文からの出題で、小問は 8 題です。接続語、指示語、傍線部の説明(2 題)、本文の内容、傍線部に当てはまる例の選択など、

出題パターンは多岐に渡ります。例年通り記述問題が出題されましたが、字数は 45～55 字と長めでした。傍線部の直前にある指定語句を含む表現を使ってまとめられれば正答に近づけますが、まとめるのに手間取った受験生が多いと思われます。

問四は古文です。設問は例年通り、主語を問う出題、傍線部の内容や理由を問う問題、文章全体の内容一致の問題であり、「誰が何をしたのか」が順に把握できていることが正答にいたるカギになります。(ウ)は、「か」を用いた表現が単なる疑問ではなく、反語の表現であることに気づかなければ点数を得られない設問でした。

国語 出題分野一覧表		22年度		21年度		20年度	
		記号	記述	記号	記述	記号	記述
漢字語彙	漢字の読み取り		4		4		4
	漢字の書き取り		4		4		4
	四字熟語・語彙						
文法・表現			1		1		1
敬語		1		1		1	
韻文	俳句(鑑賞文含む)						
	短歌(鑑賞文含む)						
	詩(鑑賞文含む)						
資料を含む文章		1		1		1	
小説	心情を問う設問	11		11		9	
	場面を問う設問					2	
	語句						
	本文との正誤問題	2		2		2	
論説	接続語の補充	2		2		2	
	傍線部の理由を問う設問			2		2	2
	傍線部の説明を問う設問	6		8		4	
	語句						
古文	本文との正誤問題	6	2	2	2	6	
	主語を問う設問	2		2		2	
	仮名づかい・語彙						
	傍線部の理由を問う設問	4		2		2	
	傍線部の説明を問う設問	2		2		2	
	本文の内容を問う設問			2		2	
本文との正誤問題		2		2		2	
作文							
合計			50		50		50

## 入試までに準備しておくこと

まずは小中学校で学んだ漢字を全て書けるようにしましょう。熟語や文の形で練習するとより効果的です。小説は、登場人物とその心情、心情の変化がおこるきっかけなどに注意しながら読みましょう。論説文では、要旨をつかむ練習が必要です。苦手な人は、段落ごとに大まかな意味をつかむ練習をしましょう。また、筆者の主張を含む文を見つけたら必ず線を引くなどしておきましょう。古文については、「誰が何をしたのか」を把握しながら読む練習を数多く行って経験を積みましょう。古文では主語が省略されることが多いので、書かれていないときは自分で補いながら読む必要があります。

# 神奈川 共通問題 数学 出題傾向と対策

## 出題傾向の分析

出題構成は例年通りの大問7題、うち2題が独立小問集合形式で、総小問数は、23題でした。

問1は基本的な計算問題、問2は因数分解、2次方程式、連立方程式、変化の割合、図形の5題でした。問3は直線と曲線のグラフの問題で、比例定数、直線の式、三角形の面積比と例年通りの出題でした。面積比は、頂点の座標や面積を求めて比を求めなくても、図形を利用して線分比から求めることができました。問4の確率はさいころからカードに変わりましたが、2種類の組み合わせという点で基本形式は同様でした。しかし、変化に対してあわててしまったことが予測されます。問5は、2直線上におかれた点とそれを結んだ線分が点の増加とともに規則的に増えることを利用した2次方程式の問題でした。(ア)はいつもどおり数えて対処でき、(イ)ではきちんと式を立てることが必要でした。ただ、数が大きくなり、因数分解に少々手がかかってしまったことが考えられます。問6の空間図形で、(ア)は表面積を求める問題、(イ)は立体を利用した問題で、立体表面上の最短距離と立体内部の最短距離を問うものでした。問7は円と直線を使った図形の問題で、(ア)は穴埋め形式の相似の証明問題で、(イ)は角を求める問題でした。証明では、適当な弧や角を記述するものも含まれていました。

## 入試までに準備しておくこと

確率で多少目新しいテーマによる出題はあったものの、傾向は安定しています。過去問や類似問題で準備をすることが必要です。計算は正確さとスピードの両面を強化するために、正負の数の四則計算、文字式の乗除と加減、3年間の方程式を一通り、展開、因数分解を十分にトレーニングしてパターンを身に付けておきましょう。関数は、問2で頻出の変域、変化の割合は必ず練習し、また、グラフ問題に向けて座標の代入から放物線の式、点の座標や条件から直線の式を求めることはすぐにできるようにしましょう。そしてグラフの交点の座標や座標平面上の図形の面積を求められるように準備しましょう。確率、方程式の応用については入試の傾向が色濃く出る出題領域なので、過去問、類似問題を中心とした演習を十分行ってパターンに慣れましょう。図形については、複雑な出題にされやすい領域なので相似、三平方の定理、円周角の定理を基礎から使いこなせるレベルにまで身に付けておく必要があります。

領域	内容	配点		
		22年度	21年度	20年度
数と式	数の性質・表現			
	数の計算	3	3	3
	式の計算	3	3	3
	平方根	2	4	4
	多項式の乗法	2	2	2
	因数分解	2	2	2
小計		12	14	14
方程式	1次方程式			
	連立方程式	2		
	2次方程式	2	2	2
	方程式の応用	6	6	6
	不等式・不等式の応用			
小計		10	8	8
関数	比例と反比例			
	1次関数			
	2次関数	2	2	2
	変化の割合・変域	2	2	2
関数と図形	直線と曲線	2	2	2
	関数と図形	2	2	2
小計		8	8	8
三角形・四角形	角度			
	作図			
	合同		3	
	相似	3		3
	三角形			
	平行四辺形			
円と平面図形	円周角の定理	3	3	3
	円と弧・弦・接線		2	
	線分、線分比	2		2
	面積、面積比			
	点の移動と図形			
空間図形	線分、線分比	3	3	3
	面積、面積比	3		
	体積、体積比		3	3
	点の移動と図形			
	回転体、球			
小計		14	14	14
確率	場合の数			
	確率	6	6	6
総合問題	数と式			
	図形			
	その他			
小計		6	6	6
合計		50	50	50

# 神奈川 共通問題 理科 出題傾向と対策

## 出題傾向の分析

問1～問4は物理・化学・生物・地学の分野ごとの独立小問集合、問5～問8は分野ごとの大問形式の2部構成でした。問1～4はどれも基本知識を問うもので、それぞれ3題ずつの小問がありました。

問5は凸レンズを用いた実験の問題でした。太陽の光を利用して凸レンズの焦点距離を測る実験は、その結果の表から求める問題やスクリーンに映る像についての出題でした。問6は、塩酸と水酸化ナトリウム水溶液の中和の実験で、指示薬にフェノールフタレインを用いていました。フェノールフタレインの色の変化をきちんと把握している必要がありました。また、水素が燃えるときの化学反応式を選択する問題、塩化ナトリウムの化学式の記述がありました。問7は、種子植物のつくりについての問題で、“種子”を記述するものなどがありました。どれも基本的な内容でした。

問8は、金星の動きや見え方などについての問題でした。太陽系の惑星の公転周期や質量などを知識としておさえておく必要がありました。

今回、注目を集めた学習指導要領改訂にともなう移行期間中の取り扱い内容にかかわる出題はありませんでした。

## 入試までに準備しておくこと

基本的な教科書レベルの知識を問う問題でした。内容に学年や単元の偏りはないので、1つの学年の内容にしぼっての学習や特定の分野だけの学習は避け、中学理科の全範囲の知識を計画的に身につけていこうにしましょう。内容をひと通り確認したら、知識が正しく身についているかを確認するために、記述式の問題を演習するだけでなく、選択形式の問題も練習しておきましょう。紛らわしい選択肢のある選択式の問題を扱うことで、知識があいまいな部分が発見できます。紛らわしい選択肢に惑わされることなく適切に対応できるように練習をしておきましょう。

また、近年出題されている科学技術とエネルギー・資源に関することや自然環境に関することからもおさえておきましょう。

分野	22年度		21年度		20年度	
	出題内容	配点	出題内容	配点	出題内容	配点
物理	音	1	圧力	2	光の反射の法則	2
	回路と電圧・電流	2	光の反射の法則	2	力学的エネルギー	2
	力学的エネルギー	2	回路と電圧・電流	2	電磁誘導	2
	凸レンズの焦点	2	重力	1	回路と電力	1
	凸レンズと像	2	斜面と物体の運動	2	回路の特徴	2
	凸レンズと像	2	速さの計算	2	抵抗の計算	2
	“実像”の記述	2	物体の運動の記録	2	回路と抵抗の大きさ	2
小計		13		13		13
化学	状態変化	1	科学とエネルギー	1	気体の性質	1
	発電とエネルギー	2	酸化銀の分解	2	有機物の燃焼	2
	化学変化と質量	2	溶解度曲線	2	エネルギー資源	2
	水溶液の性質	1	化学変化と質量	1	実験操作	1
	“NaCl”の記述	2	化学反応式の記述	2	気体の性質	2
	化学反応式	2	化学変化と質量比	2	化学反応式の記述	2
	中和	2	化学変化の記録	2	酸化と還元	2
小計		12		12		12
生物	動物の生活と特徴	1	植物の分類	2	感覚器官	2
	生殖・遺伝・形質	2	生殖・遺伝・形質	2	細胞分裂と染色体	2
	人体	2	微生物のはたらき	2	生物と環境	2
	裸子植物	1	動物の生活と特徴	1	植物の分類	1
	花のつくり	2	動物の分類	2	植物の分類と特徴	2
	“種子”の記述	2	赤血球と酸素	2	“蒸散”の記述	2
	花粉管	2	“せきずい”の記述	2	細胞分裂の過程	2
小計		12		13		13
地学	火成岩	2	太陽の動き	1	地層の調査	1
	示準化石	2	湿度	2	“柱状図”の記述	2
	大気中の水蒸気	2	初期微動継続時間	2	星の日周運動	2
	惑星	1	たい積岩	1	気象観測	1
	天体の動き	2	マグマの性質	2	気象観測	2
	“日周”の記述	2	“示相”の記述	2	気象観測と記録	2
	太陽系の惑星	2	地層の重なり	2	空気の流れ	2
小計		13		12		12
合計		50		50		50

# 神奈川 共通問題 社会 出題傾向と対策

## 出題傾向の分析

昨年度と同様に大問6題構成となっています。出題数が44題と多く、速く正確に解答していく必要があります。また、地理・歴史・公民ではほぼ同じ配点の比率となっていました。

大問1, 2は地理分野です。基礎的な知識が問われましたが、地図や資料を見て解く問題が多く、単なる語句の暗記だけでは正答するのは難しいでしょう。また、昨年度から出題が始まった短文記述の問題が地理分野で出題されていますが、指定字数が短く指定語句が多いことから、難度は高くありませんでした。

大問3, 4は歴史分野です。昨年度と出題形式はほぼ同一でした。基礎的な内容がほとんどで、時代の流れや出来事、社会のようすが理解できていれば十分に対応できます。

大問5, 6は公民分野からの出題です。こちらも基礎的な内容でしたが、憲法改正に対する国民投票や、雇用保険が社会保険に分類されること、内閣の成立の流れなど、詳細な知識を必要とされる問題もありました。また、時事問題として消費者庁も出題されていることから、現在の社会情勢の確認も重要です。

## 入試までに準備しておくこと

出題数が多いので、時間の配分にも気をつけなければなりません。基本的な知識を問う問題がほとんどですから、いかに正確に知識を身に付けているか、速く答えていくかがポイントとなります。

学校の教科書の重要語句についてはもちろん、地理では、それにあわせて地図や図表、グラフなどを読み解く練習をしましょう。統計資料の割合から数量を計算するなど、十分な練習が大切です。歴史については、政治史に加えて、文化や社会の様子と資料の確認を、公民については、基礎事項に加えて、時事的要素にも対応できるようにしましょう。

		単元	22年度	21年度	20年度
世界地理	世界のすがた	緯線・経線	○	○	○
		時差	○	○	○
		地形		○	
	気候	気候帯	○	○	
		雨温図	○		
	生活文化	生活		○	
		文化		○	
		人口	○		○
		宗教			○
		エネルギー			○
	産業	○	○		
	各国のようす			○	
日本地理	農林水産業	農業	○	○	○
		林業			
		水産業			
		工業	○		
		都道府県	富山	滋賀・三重	愛媛
	気候	気候のようす			○
		自然	○		
		災害	○		
		各地の特色	○	○	
		地形図	○	○	○
その他	交通・通信				
	貿易				
	都市問題		○		
歴史	原始古代	旧石器・縄文			○
		弥生		○	○
		古墳	○		
		飛鳥			○
	中世	奈良	○	○	
		平安		○	
		鎌倉	○	○	○
	近世	室町	○		○
		安土桃山			○
	近代	江戸	○	○	○
明治		○	○	○	
現代	大正	○	○	○	
	昭和	○	○	○	
	戦後	○	○	○	
	世界史	○		○	
公民	現代社会				
	政治	人権	○	○	○
		憲法	○	○	○
		選挙			○
		国会			○
		内閣	○	○	○
		裁判所	○		○
	経済	三権分立			
		地方自治		○	
		消費・流通	○	○	○
		価格・物価			
		生産・企業			
		金融		○	
	国際社会	職業	○		
社会保障		○	○	○	
財政		○	○	○	
国際社会		○	○	○	
配点	地理	16	19	18	
	歴史	17	16	15	
	公民	17	15	17	